

## 【八峰町】 校務DX計画

秋田県では、校務のデジタル化により教職員の働き方改革を進めることで、児童生徒一人一人に向き合う時間を確保するとともに、介護や子育て中の教職員の働き方の柔軟化や、教職員の負担軽減を目指し、令和5年度にフルクラウド型の秋田県小中学校等統合型校務支援システムを構築した。このシステムは県域で統一され、将来的には全市町村で導入する予定とし、八峰町においては令和7年度から導入することとしている。

八峰町の校務DXの推進については、統合型校務支援システムの積極的な活用のほか、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果を踏まえつつ、次のとおり取組を進めるものである。

- ・保護者連絡システムでの欠席等情報や学校等欠席者・感染症情報システム等とのデータ連携により、手入力作業の大幅な削減を図る。
- ・学習者用端末の学習振り返り支援ツールを利用し、そのデータを校務支援システムに連携させることで、校務系・学習系データの統合と可視化による業務の高度化を図る。
- ・県共通テナントでのアカウント利用により、汎用クラウドツールが共通化されるため、教職員間のコミュニケーションの活性化を図る。
- ・校務の効率化やペーパーレス化を推進するため、FAXでのやり取りを原則廃止するとともに押印の見直しを図る。
- ・メールや汎用クラウドツールを活用し、職員会議等の資料をクラウド上で共同編集、情報共有、閲覧することにより、印刷、帳合、配布の負担の軽減と会議時間の短縮を図る。
- ・アンケートの配布や集計、家庭への配布物などについて、汎用クラウドツールを活用することで、業務時間や経費の削減を図る。
- ・多要素認証等の強固なアクセス制御を前提としたセキュリティ対策の下、パブリッククラウド上のシステム活用により、ロケーションフリーでの柔軟な働き方の実現が可能となるよう新しいルールの作成を検討する。
- ・校務支援システムの活用により、有事でも、教職員・児童生徒の安否確認やオンライン授業で学びを継続させる等、優先度の高い業務の継続性を担保する。